

国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK

診療情報アナリスト養成分野(修士) 診療情報管理・分析学分野(博士)

医療福祉学研究科

■修士課程 医療福祉経営専攻

実践コース

研究コース

■博士課程 保健医療学専攻



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

修士課程 診療情報アナリスト養成分野、博士課程 診療情報管理・分析学分野のご紹介

近年、医療における疾病構造や医療環境の変化の中で、医療の質を保ちながら病院経営の改善を実現するには、医療情報に精通した診療情報の専門家が需要とされています。そこで、病院経営を側面から支える実務者の「診療情報管理士」や「医療情報分析専門家」の役割が、ますます重要になってきています。一方、診療情報の電子化やDPCの普及により、医療の質向上や病院経営に診療情報を有効に活用していくことが期待されています。

そのため、診療情報管理の知識と技能を基礎として、診療記録の正確な記載や分析・評価と、その有効な利活用を支援し、医療の質の向上や医療施設の健全な運用に必要、かつ適切な情報を提供し、経営改善の提案ができる人材への要望が高まっています。これを受けて、国際医療福祉大学大学院では2008年度に修士課程「診療情報アナリスト養成分野」を開設しました。診療情報管理士らがスキルアップするための「実践コース」と診療情報データの分析など研究者を育成する「研究コース」から構成されています。特に、「実践コース」は医療機関等に勤務する診療情報管理士や医療事務職の方が働きながら学べるよう教育環境を整備しています。平日夜間と土曜日に講義科目を配置し、ゼミナールはオンライン形式により開講していることが特徴です。さらに、2010年度には博士課程「診療情報管理・分析学分野」を開設し、診療情報管理学の博士学位を取得することが可能になっています。

診療情報アナリスト養成分野
分野責任者

山本 康弘 教授



大阪府立大学大学院 経済学研究科
博士前期課程修了。
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科
博士課程修了。博士(医療福祉経営学)。
専門は病院管理学、診療情報管理学、
医療経営学。
診療情報管理士指導者。

当分野が養成する人材〈診療情報アナリスト〉



人材養成に対応する2コース

1. 実践コース（課題研究コース）

業務上の問題を課題研究のテーマとして、問題解決能力を身につける

2. 研究コース（修士論文コース）

研究者としての分析スキルを身につけ、修士論文を執筆できる

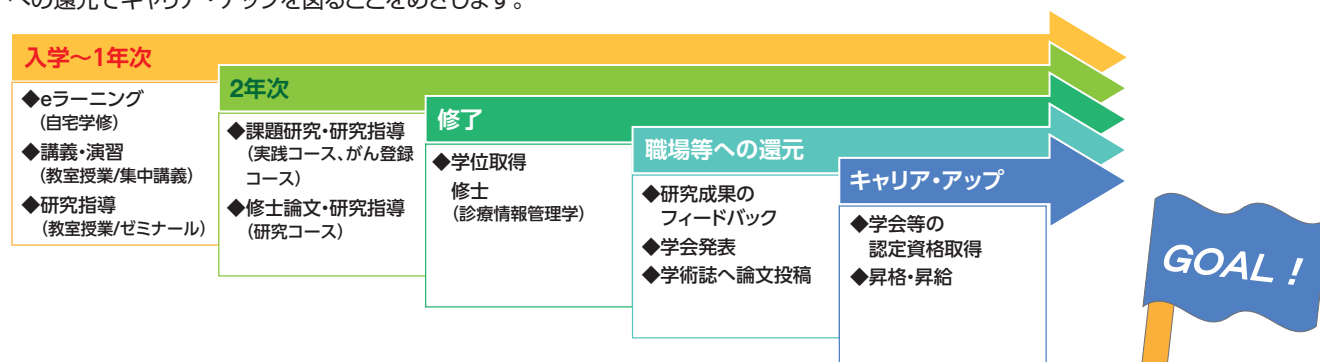
担当教員

経験豊富な教員が
充実した学修を
サポートします

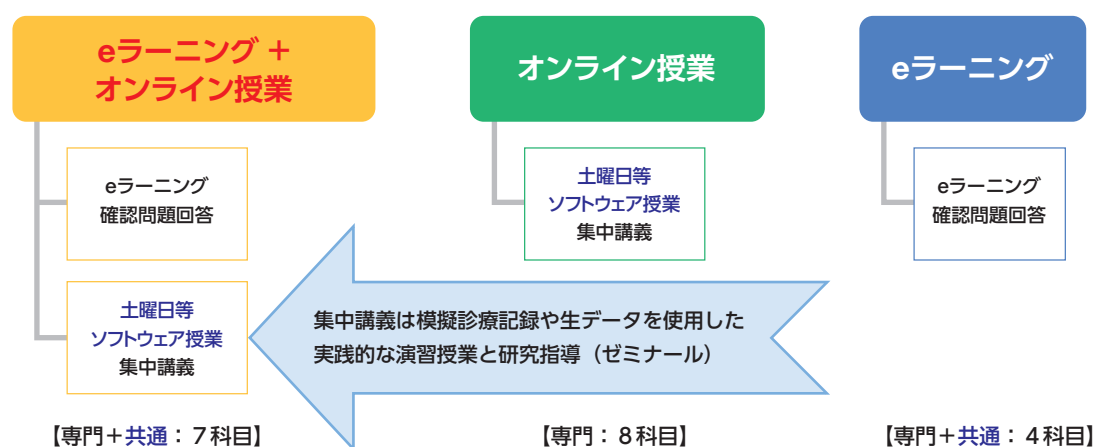
教員名	職位	研究指導テーマ
山本 康弘	教授	DPC と病院運営管理、診療情報データの分析と活用
江田 哲也	教授	医療情報を用いた分析、データの可視化および視覚化
篠原 信夫	准教授	医療情報システムの構築と評価、e ラーニングによる教育の実践と評価
坂本 幸平	講師	ヘルスケアデータ分析、診療情報の経営的活用、機械学習
連絡先メールアドレス		analyst@ihwg.jp

修士課程 入学から修了後までのプロセス

1年次は授業を中心に、2年次は研究指導を中心に行います。大学院での学びの成果をご自分のスキル・アップに、そして職場等への還元でキャリア・アップを図ることをめざします。

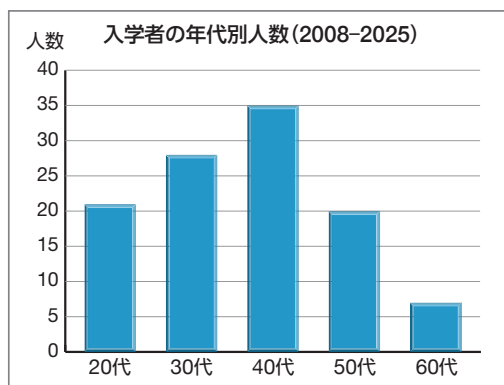


修士課程 授業スタイル【実践コースの2年間】

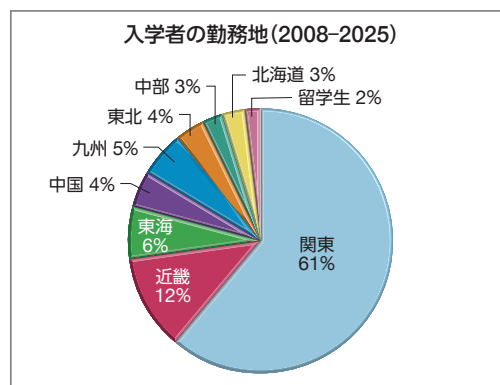


- ・社会人大学院生が学びやすいように、専門科目の授業の多くを、いつでも好きな時に学修できるeラーニングシステムによる授業と演習を集中的に行う面接授業の組み合わせで行っています。
- ・eラーニングはインターネット回線につながったパソコンから受講可能です。また、対面授業は通常オンラインで実施します。
- ・研究指導のためのゼミナールは通常オンラインで実施します。また、オリエンテーションや発表会などは、対面で東京赤坂キャンパスにて行う計画もあります。

入学者の状況



実務経験豊富な診療情報管理士の方は
学士を取得していなくても学べます



診療情報管理士の資格がない事務職の方や
データ分析に興味をおもちの医療福祉専門職の方も学べます

修士課程 カリキュラム

修士課程	専門科目および共通科目*	授業スタイル	単位数	必修／選択	標準履修年次	
					1 年次	2 年次
2 コース 共 通	医療情報分析における統計処理Ⅰ	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	実践のみ必修 それ以外は選択	前期	
	医療情報におけるデータの視覚化	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	実践のみ必修 それ以外は選択	後期	
	医療情報システム概論*	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	選択	前期	
	医療の質と診療記録のあり方	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	実践のみ必修 それ以外は選択	後期	
	医療福祉会計特論	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	選択	前期	
	リアルワールドデータ分析と病院経営	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	選択	後期	
	国際統計分類	e ラーニング＋ソフトウェア授業	1	選択	後期	
	がん登録概論	e ラーニング＋ソフトウェア授業	2	選択	後期	
	修士課程のための研究法入門*	e ラーニング	2	必修	通年	
	研究倫理特論*	e ラーニング	2	必修	前期	
	がん医療総論*	e ラーニング	1	選択	後期	
	がん医療各論*	e ラーニング	2	選択		後期
実践コース	診療情報アナリスト課題研究指導ⅠⅡⅢ	面接授業＋ソフトウェア授業	4	必修	1 年後期～2 年後期	
	診療情報管理学演習基礎ⅠⅡ	面接授業＋ソフトウェア授業	2	必修	通年	
研究コース	診療情報アナリスト研究指導ⅠⅡⅢⅣ	面接授業＋ソフトウェア授業	8	必修	1 年前期～2 年後期	
	診療情報管理学演習基礎ⅠⅡ	面接授業＋ソフトウェア授業	2	必修	通年	
	診療情報管理学演習応用	面接授業＋ソフトウェア授業	2	必修		前期

共通科目*：全ての分野共通で履修できる科目（必修科目・選択科目を含む）

修士課程 出願および修了要件

コース	出願要件	必修／選択の別	単位数	修了要件（修業年限 2 年）
実践コース （課題研究コース）	診療情報管理士、または 診療情報管理の実務経験3年以上	必修科目	16	30 単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、 課題研究審査と最終試験に合格する ◆授与する学位：修士（診療情報管理学）
		選択科目	14 以上	
研究コース （修士論文コース）	なし	必修科目	16	30 単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、 学位論文審査と最終試験に合格する ◆授与する学位：修士（診療情報管理学）
		選択科目	14 以上	

博士課程 カリキュラムおよび修了要件

診療情報管理・分析学分野 ◆修業年限：3 年 ◆授与する学位：博士（診療情報管理学）				
	専門科目	標準履修年次	単位数	修了要件
必修科目	診療情報管理・分析学講義〔博士〕	1 年次前期	2	12 単位以上を修得し、 必要な研究指導を受け、 学位論文審査と最終試験に合格する
	診療情報管理・分析学演習〔博士〕	1 年次後期	2	
	診療情報管理・分析学研究指導〔博士〕Ⅰ	2 年次前期	2	
	診療情報管理・分析学研究指導〔博士〕Ⅱ	2 年次後期	2	
	診療情報管理・分析学研究指導〔博士〕Ⅲ	3 年次前期	2	
選択科目	任意の科目	1 年次通年	2 以上	

在学生のメッセージ



松澤 祐子 さん

診療情報アナリスト養成分野（実践コース）1年

【勤務先】 公立大学法人 横浜市立大学附属病院 医事課

これまで DPC コーディングやデータ提出、がん登録に係る業務全般、診療記録開示などの業務に携わってきました。診療情報管理士の認定取得から 14 年経過し、医療を取り巻く状況が大きく変化しました。自身の知識のアップデートとスキルアップを図るため、もう一度診療情報管理の領域について学び直したいと思うとともに、勤務する病院には蓄積された膨大なデータがあることから、分析手法や統計処理を学びデータを

活用したいと考えていました。

このようなときに職場に届いた大学院のパンフレットを見て診療情報管理や分析の理論と実践が学べることを知りました。事前に分野研究発表会に参加し、先輩方がどんな研究をしているのか聴講することができました。研究テーマが私の業務課題と近い内容だったこと、指導教員の先生方と学生の信頼関係を感じることができたことから、私も一緒に学びたいと思い進学しました。仕事との両立が心配でしたが、ほとんどの授業は e-learning であり、オンラインゼミナールや授業は土曜日の午後や平日の 18 時以降に行われますので計画的・効率的に学ぶことが可能です。少人数のオンラインゼミナールでは、きめ細やかで丁寧な指導を受けられます。

忙しい毎日ですがとても充実感があり、在学生同士や卒業生との交流も楽しいです。日本で唯一の診療情報管理学の学位が取得できる大学院です。共に学び共に成長していきましょう。



下城 康史 さん

診療情報アナリスト養成分野（実践コース）1年

【勤務先】 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 医療情報部診療情報室 診療情報管理係長

私が大学院を志望した理由は、診療情報管理士としての専門性を高めるために、経験したことのない研究の分析や活用方法を中心に、診療情報管理を学び直したいと思ったことがきっかけでした。国際医療福祉大学大学院の実践コースは、業務上の問題を課題研究テーマとして取り扱っているのので、研究に取り組むやすいと考えました。

私の業務の 1 つに、医療情報データの二次利用のために、主に医師からデータ抽出の依頼があります。その対応をしていく中で医療情報データを使った研究について興味を持ち始めました。医療情報データは、疾病や治療法の情報を集積するだけに留まらず、そこから抽出した情報を、新しい見方によって価値を見付けることであり、その手段を大学院で学びたいと考えております。

大学院に入学してから、20 年振りの学生と言うことも加わって少し浮かれた自分もいましたが、一瞬で浮かれは無くなりました。新しいことを勉強するのは、有意義なことで授業を受けるだけでも楽しいのですが、あまりに研究というのに触れていなかったのか、内容がわからず卒業できるのかなと不安になってしまいました。私の同級生が 4 人いるのですが、とても気持ちの良い方々で、あの授業が難しかったとか、やっぱり考えていることは一緒で、今では、励ましあいながら進めていけています。

先生方も、親身に教えて頂いており、今は、この大学院を選択して良かったと思っています。ある先生に、教えてもらった言葉を 1 つ紹介したいと思います。とても好きな言葉なので、一生忘れないでしょう。

「例えなのですが、今まで医療機関で勤務されて実務経験も豊富な●●さんは、和食を作るプロです。大学院で研究を学ぶことは、洋食も作れるプロになるということです。和食も洋食もプロになってください」

和食のプロにすらなれているかわかりませんが、少しずつ前に進みたいと思います。

修了生のメッセージ



山本 真希 さん

診療情報アナリスト養成分野（研究コース）2023 年度修了

【勤務先】 国際医療福祉大学三田病院（東京都）

学校や通信教育で学び、診療情報管理士の認定を受けた皆さま、その後どうしていますか？ 資格を十分に活かしていますか？ 知識のブラッシュアップは十分にできていますか？ おそらくは多くの方が「十分とは言えない」と思っているのではないのでしょうか。私もそんな「十分ではない」と感じ、不安を覚えていた一人でした。

情報の IT 化や社会構造の変化に伴う医療の変化、医学の新たな知見、関連法やガイドラインの更新など目まぐるしく変わっていく中で、当然のことながら医療に関わる人達にも対応や考え方の更新が必要になってきます。診療情報管理士の役割も随分広がりを見せ、様々な知識を求められるようになりました。「十分ではない」状態で乗り切れることはとても難しく、常にこれでいいのかと不安を抱えながらの対処はストレスにもなり、また、危険なことでもあると思います。

本分野では診療情報管理を学問として学び直し、さらに医学・医療に対する視野を広げることができる講義が十分に用意されています。1 年次で知識のブラッシュアップを、2 年次で研究手法から論文執筆までと一貫したカリキュラムで学べたことは、実務に戻った今も大きな支えとなりました。

今まさに「十分ではない」ことに不安を感じていらっしゃるなら、ぜひここで学びませんか？ 決して楽ではありませんが、すべてを修めたとき、きっと今より自信をもって日々の問題や疑問を解決することができるようになるでしょう。

